大参道 ハイキングコースを歩く。

距離 ： 約 900 m

所要時間 ： 約 30分

植物お楽しみレベル

歴史お楽しみレベル

ハイキングレベル

（舗装されていない土の登山道が続くので、非常に歩きやすい）

登山道入り口 ：

達目ハイキングコース

達目ハイキングコースから東山南側斜面を北西方向にゆるやかに登り、鼻高ハイキングコースに接続する登山道。
登山道の下の方では竹林がみられ、かつて達目洞集落の里山として利用されていた形跡が見られます。
登るにつれて、ツブラジイを中心とする照葉樹林に移り変わっていく植生の移り変わりが楽しめます。

COURSE GUIDE

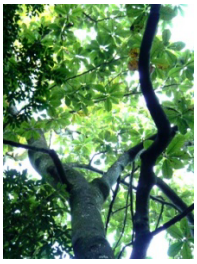
里山の名残り ①

金華山の東の登山道を歩くと昔の里山として活用されていた痕跡を見つけることができる。里山として活用されていた場所の多くでは、マンリョウやチャノキが今でも見られる。
これは、マンリョウやチャノキが庭木や畑の隅で垣根として活用されていて、自然林に入り込んだと考えられるからです。

ヤマザクラのひこばえ ②

達目コースとの接続部では、折れたヤマザクラの木から新たな芽を出しているのを見ることができます。このような現象をひこばえといいます。ヤマザクラは、ひこばえしやすい樹種であるため切られたり、折られたりしても新たな芽を見せることがしばしばあります。

ホオノキのトンネル ③

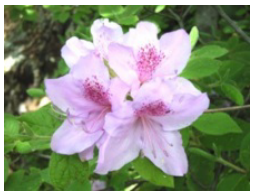


コースの中腹付近では、ホオノキが空を覆い隠すように枝を重ね合わせてトンネルのようなっています。このホウノキの葉は、芳香があり・殺菌作用があることから食品を包むなど古くから人々の瀬活に用いられてきました。飛騨地方の名産の朴葉味噌はゆうめいですよね。

コシダとウラジロ ④

このコースでは多くのシダ類を観察することができます。アカマツ林の下には、高さ30cmくらいの硬くて乾いたコシダが茂っていますし、暗く湿った環境には高さ1m程になるウラジロが多く育っています。両種ともに葉の裏が白く、お正月のしめ縄の飾りに使われています。

アカマツとモチツツジ ⑤



金華山では、アカマツのあるところでよくモチツツジを見かけます。この組み合わせは昔、自然林を人が薪炭用に利用した後できた林であることを教えてくれます。それは、アカマツもモチツツジも陽の当たる明るい場所を好んで成長する木なので、かつて人が木を切った後に開けて陽が入り込む場所所に入りこんで成長したと言えるからです。

マツとツブラジイ ⑥

金華山では、冬でも葉を落とさない常緑樹のツブラジイなどが多く生えています。
しかし尾根筋の土地がやせ、乾燥している所では、ツブラジイの成長が悪いため、ツブラジイにかわりアカマツなどの乾いた所でも成長できる木々が多く見られます。
このような様子を一般的にすみ分けと言います。

くわしくは裏面へ

大参道ハイキングコースの植物の移り変わり

大参道ハイキングコースでは、達目ハイキングコースから東山南側斜面を北西方向にゆるやかに登り鼻高ハイキングコースに接続する登山道です。金華山の登山道では珍しく、岩場の露出が少なく土の登山道が続くため膝に負担が負担がないと登山者に人気のコースとなっている。

達目コースとの接続部では、孟宗竹の林やマンリョウ・チャノキなどが見られ、かつて達目洞の里山として活用されていた痕跡を現在も見ることができます。登山道の脇では、里山として活用されていた時に詰まれたと思われる石積みが現在も残っています。

中腹では、ヒノキの植林やアカマツの林に混じりホオノキが多く見ることができます。林へ陽の光が差し込むため、コシダやウラジロなどのシダ類が豊富で登山道まではみ出し成長しています。

登るにつれて、ツブラジイなど冬でも青々とした葉をつける常緑広葉樹の森が広がるため、昼間でも光が入らず薄暗い森が広がります。薄暗い常緑広葉樹の森では、シダ類などの下草がほとんど生えておらず、日の当たらないところでも成長ができるサカキやヒサカキなどの木が観察できます。

金華山のドングリの見分け方！！

金華山では、秋になるとどんぐりを実らせる木が４種類あります。どんぐりは、その形から種類を見分けることもできますが、どんぐりの帽子で見分けるのがもっとも簡単です。

どんぐり全体を包み、先が割れているのはツブラジイ、しましま模様ならアラカシ、ウロコ模様はコナラ、もさもさと毛が生えたような帽子ならアベマキです。

また、アベマキはどんぐり、樹皮ともにクヌギとそっくりですが、岐阜市では野生のクヌギを見ることはほとんどありません。アベマキとクヌギを見分けるポイントは葉の裏側にあり、アベマキは葉の裏に細かな毛が密生し、白っぽく見えますが、クヌギは毛が生えておらずスベスベして緑色です。

イラスト／宇佐美　佳代

ツブラジイの森が広がるまで・・・

現在の金華山は、ツブラジイの森が広がっています。このツブラジイの森が広がる前はコナラなどの落葉広葉樹が生えていましたが、徐々にツブラジイの森に移り変わっていったと言われています。また、現在コナラなどの落葉広葉樹が生えている尾根付近には、以前はアカマツが生えていました。金華山の森は現在もゆっくりと変化しています。大参道ハイキングコースでは、変わってしまった森と変わっている途中の森を観察することができます。

木の根の張り方の違い

木の根の張り方には、根を深く張る「深根性（しんこんせい）」と浅く張る「浅根性（せんこんせい）」があります。

スギの根の張り方を基準にし考えると、ヒノキは浅く、コナラは深いといわれています。

金華山では、ツブラジイの板根や岩山に捕まるように成長した根など様々根の姿をみることができます。